



東地中海地域ニュース

レバノン：第18期国民議会選挙の実施と結果

研究員 江崎智絵

1. 選挙結果

6月7日、レバノンで第18期国民議会選挙が実施された。有権者数は約320万人。26の選挙区で投票が行われ、投票率は54%を越す過去最高となった(前回2005年5月末の選挙時は45.8%)。任期は4年、議席数は128で宗派毎に議席が配分されているが、イスラム教徒64議席、キリスト教徒64議席となっている。

5万人の兵士が各地の投票所に配備され、200名を越す国際選挙監視人が見守る中で行われた。ジミー・カーター米国元大統領もその1人。

8日、内務省は選挙結果を正式に発表。与党連合「3月14日勢力」(イスラム教スンニ派ムスタクバル党を中心とする親米・反シリア系)が71議席を、野党連合「3月8日勢力」(イスラム教シーア派組織ヒズボラを中心とする反米・親シリア系)が57議席をそれぞれ獲得した。与党連合が議席を1つ伸ばしたが、パワーバランスはさほど変わっていない。しかし、2005年2月にハリリー元首相が暗殺された事件を受け、与党連合が勢いを維持し続けている結果となった一方、野党側は敗北したとの声が野党関係者からも挙がっている。

また、今回選挙結果には、キリスト教徒地区でのスンナ派支持が多かったことが反映されているとの見方もある。

さらに、選挙前には、ヒズボラの影響力を拡大させないような諸外国の対応が見られた。イスラエルは、2006年のヒズボラとの戦争後もイスラエル軍を配備していたイスラエルとの国境に近いレバノンのガジャール村からの撤退を遅らせた。米国はバイデン副大統領を訪問させ、選挙結果によってはレバノンに対する米国の支援が見直されるとの立場を明示した。また、独国誌は、ハリリー元首相暗殺事件へのヒズボラの関与を報じていた。

与党連合を率いるムスタクバル党党首のサアド・ハリリー国会議員(故ハリリー元レバノン首相の次男)は、7日夜、既に勝利宣言を行っていた。現在、ハリリー議員は、次期首相の有力候補と言われている。進歩社会主義党のジュンブラット党首は、多数派の政治綱領が国家の政治綱領になることを認める一方、少数派の意見が排除されることへの警鐘を鳴らした。

野党側であるヒズボラのナスラッター書記長は、選挙結果を受け入れると発言、全政治勢

力に団結を呼びかけた。

2. 諸外国の反応

米国のオバマ大統領は、与党連合「3月14日勢力」の勝利を歓迎する声明を発出。仏国のサルコジ大統領は、スレイマーン大統領に電話をかけ、レバノンにおける民主的な選挙の実施を祝福した。

イスラエルは、与党連合「3月14日勢力」の勝利をシリアやイランの影響力から距離を置きたいとのレバノン人の願いの勝利とした。ただし、レバノンがヒズボラ国家であるとの現実を無視して、欧米諸国が与党側のハリーリー・ムスタクバル党党首やジュンブラット社会進歩党党首を抱擁することには危機感を抱いている。

シリアのバアス党は、与党連合「3月14日勢力」による票の買収が選挙結果に大きく影響したと非難。

なお、現時点で、今次選挙にシリアが関与したとの見方や批判は見当たらない。

3. 今後の課題

レバノンが取り組むべき今後の主要な課題は、挙国一致内閣の組閣、ヒズボラが所有する武器問題、シリアとの関係、ハリーリー元首相の特別法廷、である。

この中で、については、ヒズボラなど野党勢力側が閣僚の3分の1を維持できるか否かが焦点とされている。については、議会選挙後にスレイマーン大統領が実施日を決定する国民和解会合で協議されることになっている。については、スレイマーン大統領が新首相を任命する前に、レバノンとシリアの関係正常化のための会合が開催され、今後の二国間関係の方針について協議すると報じられた。

以上

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799